

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292100078		
法人名	株式会社ヘルスケアナラシノ		
事業所名	グループホーム大久保		
所在地	千葉県習志野市屋敷3-1-12		
自己評価作成日	平成28年2月10日	評価結果市町村受理日	平成28年6月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成28年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1階にデイサービス、2,3階に有料老人ホームを有した4階にある1ユニットのグループホームである。4階からの眺めは素晴らしく、朝に夕に富士山が望め夜には幕張新都心のビルの明かりのきらめきを星空のように望む事ができる。さらに夏にはベイエリアの花火も見ることができるとして入居者は毎年楽しみにしている。ホームは入居者が9名と少人数であり、一人ひとりとじっくり関わり合いながらケアを行う事ができる環境である。また、少人数であるため家庭的な雰囲気での生活をする事ができる事も利点の1つである。又地域交流にも力を入れており町内会の方々との月に一度のカラオケ会や夏祭りの招待を受けての参加等ホームのこころを知ってもらい取り組みを続けている。これからもよりよい環境づくりを心掛け安心して生活して頂けるよう努めていきたいと思っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの理念は「自分に出来る事を見つけよう。そして続けていきましょう」であり、管理者と職員は共有し実践につなげている。訪問時の食事場面では、時間がかかっても自分の力で喫食している利用者を見守る職員の姿が見られ、「何でも手を貸すのではなく、できないことを手伝う」という管理者の思いが職員に伝わっていることがうかがえた。地域との関係を大切にしており、町会のお祭りなどの行事に参加したり、公園での散歩やカラオケ大会などで近隣住民と交流している。今年度は中学生の体験学習も受け入れている。1ユニットのホームであり、家庭的な雰囲気の中で利用者はゆったりと落ち着いて過ごしていた。家族には毎月の「けんこう便り」や3か月に1回の「しらかば便り」(ホーム便り)を送り、利用者の暮らしを報告するなどして喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分出来る事を見つけよう・そして続けていきましょう」との理念の基、利用者が出来るだけ自立した生活を続けられるよう努めている。	理念はスタッフルームやリビングに掲示している。理念を支援の基本としており、管理者と職員は共有しながら日々の実践につなげるようにしている。日常の支援の中で、理念の持つ意味が職員にも浸透していると思われる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、祭り等の行事で交流している。町内会長には運営推進会議に出席していただいている。又、町内会カラオケクラブの方々とも月に1度ホームにて合同のカラオケ大会を開催している。	町会に加入し、清掃活動やお祭りなどの行事に参加している。また、町会のカラオケクラブのメンバーが毎月来訪しており、利用者も一緒に楽しんでいる。天気の良い日は近隣の公園に出かけ、地域の人達と挨拶などを交わしている。今年度は地元中学生の体験学習も受け入れるなど、地域との関係を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に於けるイベントへ参加し、地域の方々との交流を図り認知症に対する理解を深めてもらう。又ホームでのイベントに地域の方々を招待し入居者の理解を深めていただく。中学生の職場体験を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回運営推進会議を開催しホームの現状やサービスの取り組み等報告している。運営推進会議で議論された問題点に対応することによりサービスの向上に努めている。	運営推進会議は2か月に1回開催し、ホームの現状報告や議題について意見交換を行っている。会議の構成員は町会長や家族会代表、介護相談員等であり、地域包括支援センターからの参加も見込まれている。議事録は家族に送付している。	家族会の開催月に会議を行うこともあり、多くの家族の参加が見られる。今後は地域からの参加が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の向上連絡会及び地域包括センター主催の会議に出席しており他の介護事業所との情報の共有を行いサービスの向上に努めている。	市の「介護サービス向上連絡会」に参加し、各事業所の取り組んでいることなどについて情報共有や意見交換を行っている。また、地域包括支援センターが主催する「地域ケア会議」にも参加し、地域の情報を得ている。運営推進会議の議事録は市の担当課に持参するなど関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が外部、内部いずれかの研修を受け、身体拘束についての正しい理解が来ており身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	管理者は身体拘束に関する外部研修を受講し、伝達研修で全職員に周知している。職員は言葉による拘束を含め身体拘束の具体的な行為を理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。ホームはビルの4階にあり階段は施錠しているが、外に出たい様子が見られれば利用者と一緒に庭に出るなどしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待防止関連法について研修を受け言葉の虐待を始めケアの中に虐待に値する様な行為がないかお互いに注意を払い虐待の防止に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の際に、学ぶ機会を持つ様に努めている。成年後見人制度を利用していた入居者がいた事で学ぶ機会を持つことができた。これからも活用に向けて役立てたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、利用者や家族が十分に理解・納得して不安や疑問が無くなるまで十分な説明をし家族共々安心して入居して頂ける様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回の家族会を開催し家族の意見や要望を聴く機会を設けておりその他、面会時等に家族の意見、要望を聴き入れ職員で話し合い運営に反映させている。	年2回の家族会や2か月に1回の運営推進会議などで、家族の要望や意見を聴く機会を設けている。介護相談員も受け入れており、利用者の意向を聴き取っている。また、ホーム以外にも意見や苦情の窓口があることを契約時に利用者・家族に説明し、意見表出の多様な場があることを伝えている。	家族会には多くの家族の参加が見られる。会議の工夫を行い、家族だけで話し合う場を設け、ホームへの要望や意見をまとめてもらうなどの取り組みも良いと思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会等で職員の意見や提案を述べる機会を設けている。又毎日の申し送りやホーム会議の際、職員からの意見や提案を聴く機会を設けてあり運営に反映させている。	2か月に1回のホーム会議や毎日の申し送り時、日々の業務のなかで職員からの気づきや意見を聴いている。職員の意見から早番を設けるなど勤務帯を見直し、利用者のさらなる安全確保につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすく、やりがいがある職場環境を作り、各自が向上心を持って働ける様条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの持てる力を把握し、研修を受ける機会や働きながらトレーニングしていく事を進め技術の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の向上連絡会や地域包括支援センター主催の会議に出席の際、同業者との交流する機会を作っており他事業所の取り組み等を把握しサービスの質の向上に役立てている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	住み慣れた家を離れる事又家族と離れての生活に大変不安を感じていると思われる。本人が不安な事、困っている事、要望等に耳を傾けこのホームが安心して生活できる所だと分かって貰える様努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの家族の葛藤を考え、家族が不安に感じている事、困っている事、要望等できるだけ細かく話して頂ける様、信頼できる関係づくりに努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初に本人、家族双方の話を傾聴し必要としている支援を見極める。又その他のサービスをも含め対応できる様努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を支援される一方の立場に置かず、日常生活の中で暮らしを共にする者同士として食後の片付け、洗濯物をたたむ等の軽作業を自然に手伝う家族の様な関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支援していく様に対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながらこれまで大切にしていた人やいきつけの場所等これまでの関係が継続できる様支援に努めている。	友人が訪ねて来たり、家族の協力で一時帰宅をしたり、美容院や墓参りに行く利用者もいる。また、家族との電話の取次ぎをしたり、葉書を出す手伝いなど、大切な人との関係が途切れないよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立することなく適度な関係が持てるよう、体操やレクリエーション等への参加を促す支援に努めている。		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて本人・家族からの相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人や家族の思い希望を聞き入居される迄の生活環境を把握し本人の意向や希望を受け入れる事が出来る様努める。	入居前の本人や家族への聞き取りを参考にし、また、入浴介助や散歩の時など会話が弾む時などをとらえ、希望や意向を把握するように努めている。職員間の申し送り時に意見交換を行い、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活環境の把握をしできる限り今までに近い過ごし方をして頂ける様に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのその日の様子を観察し心身状態等現状の把握をしその方にふさわしい過ごし方が出来る様に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員が入居者の方々の情報を共有して、一人ひとりのケアのあり方について検討し、より良い介護計画を作成し実践出来る様に努めている。	2か月ごとに開催するホーム会議では、予め提出された全職員の意見や家族の意見、介護記録などを参考に話し合っている。モニタリングは3か月に1回、担当者会議は6か月に1回、または状態が変化した時に行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子などは個別毎の記録に記入し申し送りなどで、職員間で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の本人や家族のニーズに合わせ対応できるように出来る限り柔軟な支援やサービスの提供を心掛けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりを支えている地域資源を把握し、繋がりを継続し安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来る様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族がかかりつけ医との関係を大切に協力医、家族、ホームとの情報の共有を図り適切な診療を受けられるように支援している。	協力医は毎月1回、また必要に応じて歯科医師も往診して健康管理を行っている。定期的な通院は家族の対応であるが、家族が対応できない場合や緊急時は職員が受診同行するなど、適切な受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日常的に入居者の体調について看護士と連絡を取り、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、安心して治療ができるよう、又早期に退院できるように入院時に介護サマリー、退院時に看護サマリーにて病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族などの意向を確認しており、入居者の状況が変わった際には再確認し主治医、看護師、家族、職員で話し合いを重ねる。事業所として出来る事を十分に説明しベストなサポートができるようにしている。	入居時に利用者、家族にはターミナルケアに関する説明書と確認書を渡して説明しており、重度化してきた段階で再度話し合うようにしている。また、看護師とは24時間の電話対応が可能となり、看取りへの支援体制も整ってきている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生時には的確な対応が出来るようにマニュアルを作成し、職員が周知している。応急手当や初期対応の訓練を看護師指導のもと定期的に行い実践力を高める様に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を6ヶ月毎に利用者、職員が参加して全体訓練を行っている。又夜間を想定した訓練も行い避難誘導、初期消火等安全に対応出来るよう努めている。地域には災害時の協力をお願いしている。	デイサービス・有料老人ホームと合同で建物全体での避難訓練は年2回実施し、その他に独自で夜間避難訓練も実施している。消防署立ち会いの訓練では避難路の誘導方法など指導も受けている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応をしている。	接遇・マナーの研修を行い、身体介助時の声かけや、名前の呼び方など人格を尊重した対応に努めている。個人情報の記録は事務室に保管し施錠するなど、外部への情報漏洩がないよう管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自分の思いや希望を話せるような雰囲気や日常の関わりの中で作り自己決定出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりの生活のペースに合わせて希望に添った過ごし方が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向を大切に清潔感のある身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。又月に一度訪問理容を設けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好を献立に取り入れ、調理に参加できる入居者と食事作りをしている。食習慣の違いで食べられない物がある時は、個別に対応している。又、外食を楽しむ機会を設けている。	食材の業者が献立と食材を納入しているが、調理は職員が行い、利用者も一緒に参加しており、時にはメニューを利用者の嗜好に合わせて変更している。屋外でお弁当や流しそうめんを食べたり、外食に行くなど、食事を楽しめるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事、水分摂取量を記録しており一人ひとりの状態や習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い一人ひとりの力に応じた対応をし口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、一人ひとりの排泄パターンを把握するように努め、定時にトイレ誘導を行いその方に合わせた自立を支援している。	夜間はおむつを使用している利用者も、日中はリハビリパンツなどを利用してトイレ誘導するなど自立に向けて支援している。声かけをしているうちに自発的にトイレに行く人も出てきている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多く含む食物の工夫や適切な水分摂取を促し、毎日の適度な運動や散歩等への働きかけを行い個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には入浴日をきめてあるが、一人ひとりのその日の体調や要望に応じていつでも入浴できる様に支援している。	週2回、曜日を決めて入浴支援している。入りたくないという場合は声かけを工夫しているが、無理強いせず翌日入ってもらうなど柔軟に対応している。話が好きな利用者も多く、職員は利用者との会話をしながら介助し、楽しく入浴してもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンが違う為状況に応じて対応している。日中は出来るだけ体操やレク等で身体を動かして安眠できる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、一人ひとりの薬の目的や用法、用量について理解しており確実な服薬の支援を行い、内服後の症状の変化にも留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが、自己の得意分野で力を活かし役割を果たす事により張り合いや楽しい日々を過ごせる様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎に初詣、お花見、祭り等実施している。又利用者の行きたい店で外食をしたり買い物等外に出る機会をつくっている。夏には地域の人々や家族に協力して頂き祭りに参加している。	日常的に近所の公園への散歩や買い物などに行っている。また、季節ごとの外出や好きなものを食べに出かけたりしている。家族の協力で月命日の墓参りや外泊などをする利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談し本人の希望に応じてお金を所持し買い物等に行った際、自分で支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に応じてその都度家族に連絡が取れるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、廊下等には利用者の作品やレク行きの写真を貼り家族や利用者に見て頂いている。季節毎の花を飾るなどして居心地よく過ごせる様工夫している。	リビングは採光がよい。利用者手づくりの花瓶には季節の花が活けられていた。室温や湿度も適切に調整し、食事の時は静かな音楽を流すなど、居心地よく過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士が出来るだけ同じテーブルになる様にしている。孤立する利用者がでないように常に職員は、気を配り一人ひとりが心地よく過ごせる様に工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や思い出の品を活かし、出来るだけ自宅と同じように過ごせるように工夫をしている。	居室にはベッド、テレビ、クロゼットが設置してある。収納が十分なので、同線が確保されている。それぞれ馴染みの家具などを持ってきており、居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室にはホームプレート等を貼りご自分の部屋が分かるよう目印としている。廊下には手すりを設置し出来るだけ自立した生活が送れるよう安全にも工夫をしている。		